

想像力を働かせ

気づき・考え・学び合い・自らの生き方につなぐ

人権学習指導資料

新型コロナウイルス感染症を
通して学ぶ！



滋賀県教育委員会

目 次

活用にあたって . . . P1

学習指導資料【教材・ワークシート&学習指導案】 . . . P2～

	教材タイトル	対 象	ページ
①	もやもやしたきもち	主に小学校・小学部 (低学年)	P2
②	これでいいのかな	主に小学校・小学部 (中学年)	P4
③	あなたならどうする？ ～「ちょっと聞いたんだけど…」の落とし穴～	主に小学校・小学部 (高学年)	P6
④	本音で語ろう コロナウイルスのこと ～4つのコーナーの活動をとおして～	中学校・中学部	P8
⑤	事象から考える ～自分ならどうする？～	中学校・中学部 高等学校・高等部	P12
⑥	第3の“感染症”をふせぐために	高等学校・高等部	P14
⑦	「サベツの樹」 ～差別の根っこを見つめる～	高等学校・高等部	P20

参考資料等 . . . P22～

活用にあたって

新型コロナウイルス感染症の影響により、一年前には想像もつかなかった現実が目の前に突きつけられています。各学校におかれましては、感染防止対策をはじめ、新しい生活様式を意識した学校生活、学習指導等、手探りの状態で日々の教育活動を進めておられることと察します。

本課では、今年度当初に「新型コロナウイルス感染症に関する人権への配慮について」を通知し、

①正しく知る ②正しく行動する ③一人ひとりを大切にする

の3点に留意して一人ひとりの子ども・教職員の人権が大切にされる学校づくりの取組を進めていただくようお願いしてきました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の猛威は依然として衰えることなく、不安な毎日は今なお続いています。誰が、どこで感染してもおかしくない状況にあると言っても過言ではありません。このような状況の中、子どもたちが感じている不安や恐怖心、抱え込んでいるストレスが、時として不適切な言動となって表れてしまうことも十分に考えられます。それらの言動をただ抑え込むのではなく、むしろこれまでの人権教育の在り方を省察する契機と捉え、新型コロナウイルス感染症を通して、一人ひとりを大切にする学校(社会)づくりに向けた実践的態度の育成をめざした取組を、より一層充実・深化させていかなければならないと感じています。そのことが、新型コロナウイルス感染症に起因した差別やいじめの発生を防止していくことにつながると考えています。

そこで、このたび本課では、各校における人権教育の充実・深化の一助となるべく学習指導資料集「想像力を働かせ、気づき・考え・学び合い・自らの生き方につなぐ人権学習指導資料」を作成しました。学校現場の状況を踏まえ、教材(ワークシート・資料)に指導案(例示)をセットし、すぐにでも授業化できるように構成しています。学校・クラス・地域の実態に合わせて、道徳や特別活動、内容によっては朝の活動やショートホームルーム等の時間を利用した人権学習においてご活用ください。

本学習指導資料は、新型コロナウイルス感染症を通して学ぶ内容で構成しており、新型コロナウイルス感染症以外の人権課題にも適応できるように作成しています。また、対象学年・部を示していますが、あくまで目安ですので実態に合わせて編集し活用していただくことも可能です。指導案・ワークシート・授業用パワーポイント資料等は人権教育課のホームページに掲載していますので、ダウンロードしてより使いやすい指導資料としてご活用ください。また、タブレット端末等を使った学習にも活用していただければ幸いです。(ワークシート中では感染症を表す言葉として、あえて「コロナ」という表記を使用している箇所があります。こうした使い方の中で、風評被害や不快な思いをする人が発生していることについてもご留意ください。)

最後に、本指導資料の作成に際しまして、びわこ成蹊スポーツ大学客員教授の園田雅春先生には、監修をお引き受けいただき、たいへんお世話になりました。ご指導、ご協力いただきましたことに感謝申し上げます。

令和2年(2020年)12月

滋賀県教育委員会事務局人権教育課

()くみ なまえ()

つぎの おはなしをよんで かんがえてみましょう。

「もやもやしたきもち」

「ひなたさん きょうもおやすみかあ・・・」

ひなたさんは ほいくえんのときから わたしのともだちです。とてもなかよしでいつもいっしょに あそんでいます。そんなひなたさんが がっこうをやすんで きょうで1しゅうかんになります。

カバンからふでばこなどをだして あさのじゅんびをしていると ちかくのせきのりょうこさんとひろおさんのはなしごえが きこえてきました。

りょうこさん「ひなたさん きょうもおねつで おやすみなんやって」

ひろおさん「うわー ひなたさん もしかしてコロナなんとちがう！」

りょうこさん「そりゃな！！」

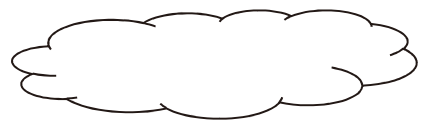


わたしは すごくもやもや しましたが なにもふたりにいうことができませんでした。

1. 「わたし」は なぜもやもやしたのでしょうか。もやもやした りゆうを かんがえてみましょう。

2. 「わたし」は りょうこさんやひろおさんに ほんとうは なんといいたかったのでしょうか。

3. きづいたことや おもったことを かいてみましょう。



もやもやしたきもち

本時のねらい (めざす子どもの姿)

○根拠のない言葉が人を傷つけてしまうことを知り、安易な言葉で誰かを傷つけたり、差別したりしないよう、人の気持ちを考えて行動しようとする態度を身につける。

学習の流れ

学習活動	指導上の留意点・ポイント
<p>導入</p> <p>もやもやしたきもちになったことがありますか。</p>	<p>○どんな時に「もやもやしたきもち」になったかを出し合う。</p>
<p>展開</p> <p>教材を範読する。</p> <p>「わたし」はなぜもやもやしたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの悪口を言われたから。 ・ひなたさんがかわいそうだったから。 ・二人に言いたいことがあったのに言えなかったから。 <p>「わたし」は りょうこさんやひろむさんにほんとうはなんといいたかったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの悪口は言わんといて。 ・本当かどうかもわからないのに、勝手なこと言ったらあかん。 ・わたしがそんな風に言われたらいややからそんなこと、言わんといて。 	<p>○登場人物の名前については学級の実情に応じて変更する。</p> <p>○もやもやした理由について交流する。</p> <p>○「もやもやしない」と発言する児童がいた場合には、その理由についても丁寧に聞き取る。</p> <p>○一つにまとめることはせず、多様な考えを出し合う。</p> <p>○自分が「わたし」だったらどうしますか、と問いかけることも流れの中でおこなう。</p>
<p>まとめ(終末)</p> <p>学習をして、気づいたことや思ったことを発表し、共有する。</p>	<p>○「言ってはいけない」「してはいけない」という制限や禁止のみの指導ではなく、一人ひとりがかけがえのない大切な存在であることを伝える。</p>

※新型コロナウイルス感染症を含め、感染症は誰もが感染するリスクがある。感染した人を「悪者扱い」してはいけないことを明確に伝えること。

※新型コロナウイルス感染症に罹患経験のある児童やその家族、家族が医療従事者の場合もあることを念頭におき、個人が特定されないよう注意すること。

※日頃から病気で欠席している児童への配慮、欠席がちな児童を意識した集団づくりを心がけること。

名前 ()

「これでいいのかな」

Aさんは熱を出して2週間休みました。かぜをこじらせたようで、熱は下がり、病院で「明日から学校へ行ってもいいよ」と言われたのですが、念のため多く休んだのでした。

Aさん「おはよう。みんなひさしぶりやなあ。」

Bさん「ひさしぶり。だいじょうぶやった？長いこと休んでたなあ。」

Aさん「うん。もう大丈夫やで。」

休み時間になると、こんなひそひそ話がきこえてきました。

Cさん「あんなに長い間休んでたなんて。コロナやったんとちがう？」

Bさん「そうかもなあ。」

Cさん「うつるかもしれないから気をつけよう。」

このひそひそ話が聞こえてきて、Aさんはとても悲しい気持ちになり、そのままうつむいてしまいました。

そばで様子をみていたDさんは言いました。

「

それを聞いて、Aさんは少し元気になりました。



1. もし、Dさんが自分だったらどんな言葉をかけますか。

2. 今日の授業で考えたことや気づいたことを書きましょう。



これでいいのかな

本時のねらい (めざす子どもの姿)

○新型コロナウイルス感染症への恐怖心や、世の中で起こっている差別事象などから、安易に嫌な言葉をかけたり、ふざけて相手を傷つけたりすることへの問題点に気づく。


学習の流れ


学習活動	指導上の留意点・ポイント
<p>導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナのことで、心配なことを出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○心配、不安を受けとめ、共有化する。
<p>展開</p> <p>1. 資料を読み、気になったところに線を引く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>そこに線を引いたのはなぜでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・決めつけてしゃべってると思ったから。 ・悲しませることを言っているのが良くないと思ったから。 ・何か嫌な気分になったから。 <p>2. ロールプレイで、Aさん Bさん Cさんの気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>演じてみて、どんな気持ちだったかな。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・嫌なことを言ってるなと思った。 ・自分がひそひそ話をされたいやだろーなと思った。 ・なんでそんなこと言うのと思った。 <p>3. もし、Dさんが自分だったらどんな言葉をかけたかワークシートに書き、グループで話し合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どんな言葉をかけたでしょう。</p> </div> <p>例「ぼくも熱をだして休んだことがあったよ。みんなに何か言われるか心配だったけど、大丈夫やった。だからAさんも大丈夫だよ。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○内容がわかるようにゆっくり範読する。 ○線を引けない児童に声をかける。 ○理由をうまく言えなくても認める。 ○役割の名札を用意する。 ○ひそひそ話をしている様子は周りにどう感じるかにも触れる。 ○できるだけ多くの児童がロールプレイできるように時間をとる。 ○意見発表しやすくするために、まずワークシートに書く。 ○かけた言葉をAさんの気持ちになって聞いたとき、どんな感じがするか発表するよう促す。
<p>まとめ(終末)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業で考えたことや気づいたことを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○まわりとちがう意見を言うのは勇気がいる。でも、間違いを伝えないでいることは自分もまわりと同じである。 ○Aさんは「かぜをこじらせた」が、「病院から学校に行ってもよい」と許可が出ている。新型コロナウイルスを「正しく恐れる」ことが大切である。 ○誰でも新型コロナウイルスに感染する恐れがある。新型コロナウイルスにかかることが悪いことではない。その人を責めたり、傷つけたりすることが大きな問題である。 <p>※できるだけ児童から引き出すことでまとめとしたい。児童から出ないときは大切なこととして教員が押さえる。</p>


※はじめに、新型コロナについて知っていることをアンケートであげさせておくこと児童の実態が把握できる。
 例：新型コロナウイルスでいじめが起こっている。
 3つの密（密閉、密集、密接）をさける。
 マスクをする。でも、体育の時はつけなくていい。
 感染した人の家に石が投げられた。
 病院で働いている人にいやなことを言う人がいる。 等

あなたならどうする？「ちょっと聞いたんだけど・・・」の落とし穴


あなたならどうする？①


Aさん  ちょっと聞いたんだけど、先週から休んでるCさん、どうも高熱が続いてるらしいよ。ひょっとしてコロナかもしれないね。


Bさん  そう言えば、先週、せきしてたの見たよ。感染するといやだし、ずっと休んでくれたほうが安心だね。

<自分> 


あなたならどうする？②


Aさん  ちょっとネットで見たんだけど、昨日の感染者は、私たちの校区の〇〇町に住んでる人らしいよ。


Bさん  〇〇町は感染が広がってるかもしれないから、あの町に行くのはやめよう。あそこに住んでるDさんもうつってるかもしれないから、明日からはなれたほうがいいね。

<自分> 

あなたならどうする？③ (発展編)

Aさん  毎日テレビでコロナのことやってるけど、モヤモヤすることばかりだね。なにか、ほっとする話はないのかな。

Bさん  この前、ニュースで見たんだけど、ごみを回収してくれている人への感謝の気持ちをごみ袋に書いて出した人がいて、回収する人がうれしそうな顔をしてたんだ。だから、ぼくも、ごみ袋に「ありがとう」って書いてみたよ。もっとできることあるんじゃないかな？

<自分> 


あなたならどうする？「ちょっと聞いたんだけど・・・」の落とし穴

本時のねらい（めざす子どもの姿）

○うわさや不確かな情報が差別やいじめを生む原因の一つになることに気づき、その時、自分ならどうするか、どうすればいいかを考え、意見交流することを通して、自らの言動につなげられるようにする。

学習の流れ

(教材：ひぐちともこ「あの子」解放出版社)

学習活動	指導上の留意点・ポイント
<p>導入</p> <p>・ウイズ・コロナの時代に「うわさ」について改めて考える。</p>	<p>○人から聞いたうわさ話について出し合う。</p>
<p>展開</p> <p>・AさんとBさんの会話で、問題だと思うところに線を引き、自分がその場にいたら、「こう言う」「こうする」と思うことを、吹き出しの中に書き込む。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「これは問題だな」と思うところに線を引き、自分がその場にいるとしたら、「こう言う」「こうする」と思うことを吹き出しに書き込みましょう。</p> </div> <p>・書き込んだことを交流する。</p>	<p>○ワークシートを用いて、一人ひとりが、AさんとBさんの会話に向き合い、その問題点について考える時間を確保することで、問題意識を高める。</p> <p>○一人ひとりが、「自分ならどう返事するか」「自分ならどうするか」を考え、自分の言葉で表現することで、内面化を図る。</p> <p>○意見交流を通して他者の考えに触れたり、自分の考えを深めたりできるようにする。</p> <p>○「Aが言っていることが事実だとしたら、私はどうするのか。」も考えさせたい。その際、「自分がC、Dの立場なら…」と考えることを通して、相手の心を想像したり、相手を尊重したりすることの大切さについて捉えさせたい。</p> <p>○恐れるべきはウイルスであり、感染した人に罪はないことを押さえる。</p> <p>※設定時間や学級の状況に合わせて、AとBの会話を修正・選択することも可能。</p>
<p>まとめ（終末）</p> <p>・絵本「あの子」を読み聞かせる。</p> <div style="text-align: center;">  <p>『あの子』解放出版社 ひぐちともこ さく・え</p> </div> <p>・学んだことを書く。 (学んだことを交流する。)</p>	<p>○絵本「あの子」を読み聞かせることで、より考えをしっかりと深められるようにする。</p> <p>※絵本を準備できない場合は、新型コロナウイルスに関して、心配していることや今困っていることを出し合う時間にしたい。その際、授業者も一緒に共感する姿勢を大切にしたい。</p> <p>※ワークシート③を用い、ポジティブなエピソードから、自分にもできることはないかを考え、交流する時間にすることも可能。</p> <p>○本時のふり返りとして、「この時間に学んだこと」(感想)を書く。授業者の思いを語る時間も確保したい。</p> <p>○感想を読み合い、共有することで、学級の財産として生活に生かしていきたい。(後日でも可)</p>

※ワークシートは①②③の3種類ある。中心発問においては、①②を学級の実態により選択したり修正を加えたりしながら効果的な方法を選んで活用する。③については、ポジティブなエピソードから学ぶという視点で活用し、「自分のできることを」考え、生き方につなぐきっかけにしたい。

本音で語ろう コロナウイルスのこと

～4つのコーナーの活動をとおして～

学習の流れ

1. テーマを聞き、4つの選択肢から自分の考えに近いものを1つ選ぶ。
2. 自分の選んだコーナーに移動する。(密を避けること)
3. そこを選んだ理由を発表する。(各コーナーでできるだけ多く発表する)
※これらの活動を繰り返し行う。

- ▶ 友だちの考えに左右されることなく、自分の考え(本音)で判断しよう。
- ▶ 時間をかけ過ぎず、直感を大切に選択しよう。

前

① そう思う	② ややそう思う
③ あまりそう思わない	④ そう思わない

Part 1

「新型コロナウイルスに感染するのは本人の責任だ。」

Part 2

「医療従事者やその家族は感染している可能性が高いので、外出をひかえるべきだ。」

Part 3

「感染した人の実名や住所が、インターネットやSNS上でさらされるのは、しかたがないことだ。」

Part 4

「『うちの学区から感染者が出たらしい』というメールが来たら、できるだけ多くの人に拡散して知らせたほうがよい。」

Part 5

「新型コロナウイルス禍で、今まで当たり前だと思っていたことのありがたさに気づいた。」

本音で語ろうコロナウイルスのこと ～4つのコーナーの活動をとおして～

本時のねらい（めざす子どもの姿）

- 新型コロナウイルス感染症に伴う差別や偏見を生まないために、自分の考えを持ち、その思いを相手に伝えながら本音で意見交流する。
- 活動を通して、さまざまな考え方にふれることで人権意識を高め、自分や周りの人の人権を大切にする行動について考える。

学習の流れ

学習活動	指導上の留意点・ポイント				
<p>導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスに関して、自分たちができることについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルスに関する話題を「自分ごと」としてとらえられるよう留意する。 				
<p>展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「4つのコーナー」の活動の進め方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・「4つのコーナー」の活動をする。 <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマを聞き、4つの選択肢から自分の考えに近いものを1つ選ぶ。 2. 自分の選んだコーナーに移動する。 3. そこを選んだ理由を発表する。（各コーナーでできるだけ多く発表する） <p>※これらの活動を繰り返し行う。</p> <p>（場の設定）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">① そう思う</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">② ややそう思う</td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">③ あまりそう思わない</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">④ そう思わない</td> </tr> </table>	① そう思う	② ややそう思う	③ あまりそう思わない	④ そう思わない	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の進め方を説明する。 ○本音で語ることができるような雰囲気づくりに配慮する。 ※別添のパワーポイントを使って進めてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ○Part 1～Part 4の内、2つほどを使い、話し合い活動を重視する。Part 5は必ず取り上げたい。 ○友だちの考えに左右されることなく、自分の考えで判断すること、また、あまり時間をかけ過ぎず直感を大切に選択することを助言する。 ○生徒の活動が中心であるので、率直な意見を大切にし気持ちを否定しないようにするが、差別や偏見を肯定するような発言には指導者から適切な説明を行う。また、他の生徒に意見を求め、対話を促す。 ○選んだ理由をていねいに語り、それを元に対話を深める。 <ul style="list-style-type: none"> ○取り上げるテーマ数や各コーナーでの発表者数は、学習時間を考慮して決める。
① そう思う	② ややそう思う				
③ あまりそう思わない	④ そう思わない				
<p>まとめ（終末）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「4つのコーナー」の活動を終えて思ったことを発表する。 ・教師自身が生徒にメッセージを送る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これから自分たちができることを話し合う。 ○まとめの話をする。 				

※生徒の移動ができない場合は、グループでの意見交流をしてもよい。話し合いの活動が行えない場合は、個人ワークとして行う。その際、白紙やミニホワイトボードにPart 1～5の番号を書いて自分の意見を発表したり、PCやタブレットを使用して意見を集約して提示する等、状況に応じて活動を行う。

※活動を行う際は、感染者やその関係者、医療従事者等がいる家庭の生徒を不安にさせることがないように、事前に学習内容について話し合っておく等、十分な配慮が必要である。

この授業は、生徒の率直な意見交流が中心となるため、他の人の意見をじっくり聴いて考える「対話」、「話し合い」の時間を十分に設けてください。仲間のさまざまな意見を聴いて、自分の中に葛藤が生まれたり、より確信が持てるという対話のプロセスにこそ学びがあります。

まとめ（終末）においても、生徒から出た意見をきちんと受け止めたうえで、例えば「正直言って、先生自身にとっても初めての経験だから毎日不安や戸惑いがいっぱいある。その点ではみなさんと一緒です。でも…」この、「でも…」から後に何をどう語るのか。ここが生徒にとっても最も聴きたいところです。教員自身の思いを自分の言葉でていねいに語ることで、一人の人間として生徒と「共に学ぶ」人権学習の時間としたいものです。

Part 1 : 「新型コロナウイルスに感染するのは本人の責任だ。」

新型コロナウイルス感染症は、無症状の人もいることから、どこで誰から感染したかわからない場合も多く、誰でも感染する可能性があります。しっかり予防していても感染したケースが報告されています。しかし、感染が確認された人の家に石が投げ込まれてガラスが割られたり、壁に落書きされたりする被害が実際に報道されています。

「もし自分が感染したら、家族が、友だちが…」と想像力をめいっぱい働かせて、自分も他人（ひと）も大切にするためにはどうすればいいかを考えながら行動することが大切です。

Part 2 : 「医療従事者やその家族は感染している可能性が高いので、外出をひかえるべきだ。」

医師や看護師といった医療従事者の方々は、いつ自分が感染するかわからないといった感染リスクと向き合いながら、今も最前線で病気と闘っておられます。他にも、日々の暮らしを支えるために働く人々がいるからこそ私たちの生活が成り立っています。

「エッセンシャル・ワーカー (Essential Worker)」という言葉を知っていますか。英語で「必要不可欠な」を意味するエッセンシャルと、「働く人」を意味するワーカーを組み合わせた言葉です。どの仕事も尊いものですが、特にリモートワークのできない「現場」で、さまざまなリスクに直面しながら働く人々を指します。第一次産業従事者や宅配便の配達員、運送業者、ごみ収集従事者、郵便局員等の流通に関わる人、スーパーやドラッグストア等の小売業に従事する人、介護施設や公共交通機関で働く人、消防員や警察官、保育士等もエッセンシャル・ワーカーです。商業施設やビルをブルーにライトアップしたり、毎日決まった時間に拍手を送ったりする行為は、そのような人々への感謝や敬意の気持ちを表す一つです。

感染リスクと向き合っていることだけで偏見や排除をすることは断じて許されるものではありません。

Part 3 : 「感染した人の実名や住所が、インターネットやSNS上でさらされるのは、しかたがないことだ。」

個人の私生活に関わる情報（プライバシー情報）が、誰かによってみだりに公表されては私たちは安心して生活できません。もし感染が事実であっても、感染者の特定につながる内容を掲載・拡散する等の行為は人権侵害にあたります。

感染者を探し出すような行為自体が、感染者やその家族をいっそう苦しめることとなります。また、これらを恐れるあまり、熱や咳があっても受診をためらったり、思い当たる感染経路を隠したりして、結果として感染を拡大させることにつながります。

Part 4 : 「『うちの学区から感染者が出たらしい』というメールが来たら、できるだけ多くの人に拡散して知らせたほうがよい。」

新型コロナウイルス感染症に関する様々な情報の中には、不確かな情報や事実と異なる情報もあります。不確かなことは情報源を確かめる、信用できる公的機関が提供する情報を得る等、氾濫する情報に翻弄されることなく、正しい情報に基づいて認識・判断することが大切です。

不確かな情報やうわさを発信・拡散することが、人々をさらに不安にさせ、偏見や差別、いじめを生む原因になります。

Part 5 : 「新型コロナウイルス禍で、今まで当たり前だと思っていたことのありがたさに気づいた。」

さまざまな制限や活動の自粛をしなければならない生活が続く中で、これまで当たり前だと思っていたこと、例えば、学校へ来て友だちとしゃべること、授業中グループで話し合っ課題に向かうこと、部活動などの集団活動、体育祭や文化祭、修学旅行などの学校行事…が実は当たり前のことではなく、これまでの日常生活のありがたさに気づいた人もいます。

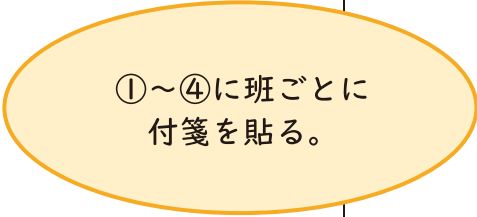
また、どうしても気持ちが塞ぎがちになることが多いですが、巻末にある「ほっとエピソード」のように、このような生活の中でも、相手のことを思いやる優しさや互いに助け合っいこうとする言動が見うけられます。このような状況だからこそ、気持ちが少し明るくなるような、ほっとするようなポジティブな話題に目を向けていくことも忘れたくないものです。

事象から考える ～自分ならどうする？～

◆報道された事象の例

1. 感染した人の名前や住所がインターネット上で公表され、誹謗・中傷を書き込まれた。
2. 学生が感染した大学に「感染した学生の住所を教えろ」といった内容の電話やメールが多数寄せられた。
3. 感染者が出た大学の学生が、アルバイトを解雇された。
4. 医療従事者がタクシーに乗車拒否されたり、飲食店から入店拒否されたりした。
5. 長距離トラック運転手の子どもが、体調に問題がないにもかかわらず学校から自宅待機を求められ、入学式に行けなかった。
6. 宅配業者の配達員が、配達途中すれ違いざまに見知らぬ人から「コロナを運ぶな」と除菌スプレーを吹きかけられた。

模造紙レイアウト例

 <p>①～④に班ごとに 付箋を貼る。</p>	
②どこが問題？	①自分がされたら言われたら？
③なぜしたのだろう？	④発熱者が出たら？

事象から考える ～自分ならどうする？～

本時のねらい（めざす子どもの姿）

- 新型コロナウイルスに関して実際に起こった言動から、その言動に至る心理を考える。
- ウイルスを遠ざけることと人を遠ざけることの違いを確認し、自分が今後とるべき言動と自分の内面との向き合い方について考えを深める。

学習の流れ

学習活動	指導上の留意点・ポイント
導入 ・新型コロナウイルスに関して、実際にあった差別事象（身近なもの、ニュースで見聞きしたもの等）がなかったかの問いかけ。	○生徒にたずねたのち、「報道された事象の例」を提示。（生徒からの回答を追記してもよい）
展開 （班活動） ・事象例を読んで感じたことを出し合う。 [発問1]自分が____線部の立場ならどう感じるか。どう思うか。 [発問2]事象のどういう点が問題か。 [発問3]なぜこの人たちはこのような言動をしたと思うか。 [発問4] クラスの仲間に発熱者が出た時、自分はどうか。自分の心とどう向き合うか。← 中心発問	○班ごとに付箋に書き出し紙に貼らせる。 ○差別的な言動の心的背景にウイルスへの恐怖、不安（人を遠ざけ、誰かのせいにする等）、ストレス（自粛への不満等）があることを押さえる。 ○背景にある心理を理解したうえで、学校で起こりうる状況において、具体的にどのように考え、行動するかを想像させ、率直に話し合いをさせる。
まとめ（終末） ・学んだことを整理する。 ・前向きな事例を確認する。← 重要 ・クラスに発熱者が出た時の「自分用マニュアル」の作成につなげられるとよい。	○ウイルスを遠ざけること（手洗い、咳エチケット、密を避ける）と人を遠ざけること（誹謗中傷、バッシング）は全く違うことを押さえる。 ○発熱者が出た時、学校はどのような対策を考えているか具体的に示し、生徒が安心して生活できるようサポートすることを伝える。 ○生徒に自分が感じたことや新聞等で知った事例などを聞き、「自分もこうありたい」と思えるようなイメージを皆で共有する。特に、エッセンシャルワーカーの日常に思いをはせられるようにしたい。（前向きな事例は巻末資料参照）

※標準学習時間は1時間。各班に付箋や白紙を準備する。

※時間があれば、動画「ウイルスの次にやってくるもの」（日本赤十字社）を視聴することも可能である。（Youtube：3分18秒）

※班活動が望ましいが、状況に応じてタブレット端末を利用する等、密を避ける工夫をする。

※事例に挙がっている職業に生徒の保護者が従事していることもあるため、十分な配慮が必要である。

名前 ()

1

3つの“感染症”とは？

第1の“感染症”
第2の“感染症”
第3の“感染症”

2

第1と第2の“感染症”は どんなながっているの？

第1の“感染症”
「病気」
第2の“感染症”
「不安」

第1の“感染症”はどのようにして第2の“感染症”を引き起こすのでしょうか？

答え：

3

第2と第3の感染症は どんなながっているの？

第2の“感染症”
「不安」
第3の“感染症”
「差別」

第2の“感染症”はどのようにして第3の“感染症”を引き起こすのでしょうか？

答え：

4

第3と第1の感染症は どんなながっているの？


第3の“感染症”
「差別」
第1の“感染症”
「病気」

第3の“感染症”はどのようにして第1の“感染症”の拡大を引き起こすのでしょうか？

答え：

名前 ()

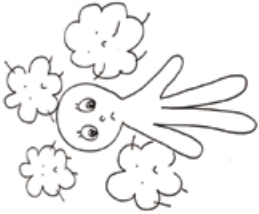
**第2の“感染症”に
ふりまわされないために**




不安や恐れは身を守る為に必要な感情ですが、不安や恐れは私たちの

気づく力
聴く力
自分を支える力

を弱め、私たちから力を奪い、時に冷静な対応ができなくなることもあります。



**第1の“感染症”を
ふせぐために**

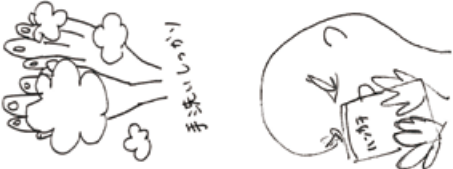


1人1人が衛生行動を徹底しましょう。


「手洗い」
「咳エチケット」
「人混みを避ける」

など

ウイルスに立ち向かうための行動を、自分のためだけでなく周りの人のためにもすることが大切です。




**第3の“感染症”を
ふせぐために**




あなたはどこの気持ちになりますか？

親友のお母さんは看護師さんで、病院で一生懸命働いています。ある友達がその親友に、「コロナがうつるからこここないで」と言っていた時。




**第3の“感染症”を
ふせぐために**



あなただったらどうしますか？

SNSを見ていると

「拡散希望！●●病院の医師です。
××を飲むと、感染症が治ります！」
という投稿が流れてきた時。



※実際に日本赤十字社でも事例がありました。確かな情報かどうかはホームページを見たり、情報元を調べるなど、慎重に確かめる必要があります。

名前 ()


もしクラスに感染者が出たら、
あなたはどんな状況になると
想像しますか。

10

本日の学習を振り返り、
感じたことを書き留めて
おきましょう。

12

第3の“感染症”を
ふせぐために



あなたの周りで、「第3の感染症」が
流行しているような例はありますか？

もうひとつに教えてくださいませんか？

9

あなたはその時、どう考え、
どんな行動をとりますか。

11

3つの“感染症”とは？

第1の“感染症”
「病気」

第2の“感染症”
「不安」

第3の“感染症”
「差別」

※ウイルスについて正しく知ることの重要性をおさえる。

第1の“感染症”
「病気」

第2の“感染症”
「不安」

第1の“感染症”はどのようにして第2の“感染症”を引き起こすのでしょうか？

答え：
未知のウイルスで、わからないことが多いことが不安を招く。
など

第1と第2の“感染症”は
どうつながっているの？

第2と第3の感染症は
どうつながっているの？

第2の“感染症”
「不安」

第3の“感染症”
「差別」

※人を遠ざけることで、人と人の信頼関係やつながりが壊されてしまうことをおさえる。

第2の“感染症”はどのようにして第3の“感染症”を引き起こすのでしょうか？

答え：
感染に関わる人を遠ざけることで不安から逃れられる気がする。
など

第3と第1の感染症は
どうつながっているの？

第1の“感染症”
「病気」

第3の“感染症”
「差別」

第3の“感染症”はどのようにして第1の“感染症”の拡大を引き起こすのでしょうか？

答え：
差別を受けるのが怖いので、症状があっても受診をためらってしまう。
など

第1の“感染症”を
ふせぐために

1人1人が衛生行動を徹底しましょう。

「手洗い」

「咳エチケット」

「人混みを避ける」
など、

ウイルスに立ち向かうための行動を、自分のためだけでなく周りの人のためにもすることが大切です。

手洗いしっかり

第2の“感染症”に
ふりまわされないために

不安や恐れは身を守る為に必要な感情ですが、不安や恐れは私たちの**気づく力**
聴く力
自分を支える力

を弱め、私たちが力を奪い、時に冷静な対応ができなくなることもあります。

**第3の“感染症”を
ふせぐために**

あなただったらどうしますか？
SNSを見ていると、

「拡散希望！●●病院の医師です。
××を飲むと、感染症が治ります！」
という投稿が流れてきた時。

重要な観点

- ・確かな情報かどうか、情報元を調べるなどして慎重に確かめる。
- ・気になる情報であっても、安易にSNS等で拡散しない。

など

※実際に日本赤十字社でも事例がありました。確かな情報かどうかはホームページを見たり、情報元を調べるなど、慎重に確かめる必要があります。

7

**第3の“感染症”を
ふせぐために**

あなたはどのような気持ちになりますか？
親友のお母さんは看護師さんで、病院で一生懸命働いています。ある友達とその親友に、「コロナがうつるからこつこないで」と言っていた時。

重要な観点

- ・不安な気持ちと冷静に向き合い、人を攻撃したり差別したりしない。
- ・差別的な言動に同調しない。
- ・医療従事者等、社会を支えている人々への敬意を忘れない。
- ・差別された人の気持ちを想像する。

など

8

**第3の“感染症”を
ふせぐために**

あなたの周りで、「第3の感染症」が流行しているような例はありますか？

間違った情報やデマによって不安をあたられる例として

- ・トイレットペーパーは外国製が多いため今後品薄になるから買いためておいたほうがよい。
- ・不安を解消するために人を避けたりする例として、宅配業者の配達員が配達中に除菌スプレーを吹きかけられる。

など

どのように対応すればいいでしょうか？

- ※7枚目、8枚目を参照。
- ※生徒が自由に意見を出し合う。
- ※「正しく知ること・正しく行動すること」が重要であることをおさえる。

9

もしクラスに感染者が出たら、あなたはどんな状況になると想像しますか。

- ※率直な意見を出し合う。
- ※マイナス面の想像だけでなく前向きな想像があってもよい。
- ※意見が出にくい場合は具体的な場面や時間を提示する。

10

あなたはその時、どう考え、どんな行動をとりますか。

- ※他の生徒の考え・意見を知る場を設けたい。
- ※身近に感染者が出た場合のシミュレーションとなる内容なので、丁寧に扱いたい。

11

本日の学習を振り返り、感じたことを書き留めておきましょう。

※日本赤十字社「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!～負のスパイラルを断ち切るために～」を指導者用資料としても御参考ください。

12

第3の“感染症”をふせぐために

本時のねらい（めざす子どもの姿）

- 新型コロナウイルスの「3つの“感染症”」について理解する。
- 「第3の“感染症”」に至る事例を検証し、防ぐためにとるべき言動を考える。
- 感染症を身近なものにとらえ、自分自身がどう向き合うかを具体的に考える。

学習の流れ

学習活動	指導上の留意点・ポイント
導入 ・新型コロナウイルスの怖さにはどんなことがあるか。（病気そのものだけではなく、という問いかけ。）	○動画視聴への意識づけ （生徒の発言内容を病気そのものへの恐怖とそれ以外の恐怖に分けて黒板に書きあげるとよい。）
展開1 （班活動） ・動画の視聴。（6分40秒） ・動画の内容を振り返る。（ワークシート1～6）空欄を埋めながら、動画の内容を復習。 ・第3の“感染症”について <ol style="list-style-type: none"> ① 具体的な事例を用いて、どんな気持ちになるか、自分ならどうするかについて考える。（ワークシート7、8） ② 身近にみられる差別的な事象を書き出す。（ワークシート9前半） ③ 重要 自分がとるべき言動について考え、正しい言動を具体化する。（ワークシート9後半） 	<動画>「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」 （日本赤十字社） https://www.ishikawa.jrc.or.jp ○動画のポイントを押さえ、内容を確認する。 ○主な意見を共有する。 ○見聞きしたり体験したりしたことを振り返る。
展開2 ・ 重要 クラス内の「第3の“感染症”」について考える。（ワークシート10、11）	○感染症をより身近な出来事として捉え、感染症への自分自身の向き合い方を考え、深める。
まとめ（終末） ・ 重要 学習を振り返る。（ワークシート12）	○学習を通じて思ったこと、感じたことを率直に書く。 ○新型コロナウイルス感染症に限らず、様々な事象を身近なものとして捉える視点について触れるとよい。 ○不安に感じている生徒のサポートをする。（後日、不安の原因を丁寧に聞き取る。）

※出典：日本赤十字社「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」

※標準学習時間は2時間。

※班活動が望ましいが、状況に応じてタブレット端末を利用する等、密を避ける工夫をする。

A の樹

B コロナサベツの樹

C サベツの樹

D の樹

指導者用参考資料

Bの枝部分に関する視点

- ・「〇〇の地域は危ないよ」→地域から患者が出たことと地域そのものを結びつけてしまっている。また、その地域から患者が出たというのは正しい情報なのか。
- ・「外国人がウイルスを持ち込んでいるかも」→日本に定住している外国人も多く、様々な状況がある中で外国人を一括りにしてしまっている。また、そもそもその情報は正しいのか。
- ・医療従事者の子は登校させないで→医療従事者とその家族を一括りにしてしまっている。感染拡大防止のため最前線で働いている人々への敬意・ねぎらいの気持ちに欠ける。
- ・マスクをしていない人は非常識な人だ→感覚過敏の人、小さい子どもなどに、マスクの肌触りや臭いに耐えられない人もいる。
- ・患者の出た店での買い物はやめよう→消毒等、基準を満たした十分な対応後に再開している場合がある。また、その店から患者が出たという情報は正しいのか。
- ・県外で働く家族のいる子とは遊ばない方がいい→家族を一括りで考えてしまっている。県外で働くことと感染とは直接結びつかない。

展開2 の例

- ・正しいことを知る。
- ・いろいろな情報を集めてから行動する。
- ・すぐ他人に同調しない。
- ・ノリと勢いで行動しない。
- ・一度落ち着く。冷静になる。
- ・相手の気持ちを推し量る。
- ・自分の中にもこういう心があると自覚する。
- ・人を大事にできているか確認する。
- ・みんなそれぞれに大切な人や守りたいものがあると考える。
- ・自分には関係ないと思っていないか省みる。
- ・自分を当事者の立場に置きかえてみる。
- ・うわさや迷信を疑う視点を持つ。
- ・誰かや何かのせいせず、事の本質を見抜こうとする。
- ・自分さえよければいいと思っていないか省みる。
- ・後悔するようなことはしない。
- など

※日本赤十字社「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！負のスパイラルを断ち切るために～」を指導者用資料としても御参考ください。

「サベツの樹」～差別の根っこを見つめる～

本時のねらい（めざす子どもの姿）

- 人の心の中にある、偏見や差別につながる心理について考え、見つめる。
- 差別につながる心理とどのように向き合っていくかについて、考えを深める。

学習の流れ

学習活動	指導上の留意点・ポイント
導入 ・新型コロナウイルスに関して、実際にあった噂・憶測の他、非難めいた内容を回想する（身近なもの、ニュースで見聞きしたもの等）。	○生徒にたずねたのち、資料 A 配付。 （資料D に生徒の発言を記入したものを使用してもよい。）
展開 （班活動） ・枝の部分の現象が起こる時の心理を考える。 ・班の意見を集約。現象のもととなる心理をまとめる。⇒「 コロナサベツの樹 」作成 ・コロナウイルスに限らず、差別事象は人の心に潜む忌避意識や不安、恐れから発生し、顕在化することを知る。⇒「 サベツの樹 」作成 ◎ 重要 「サベツの樹」をもとに話し合う。 ①根っこに栄養を与えてしまうものは何か。 ②根っこに栄養を与えないために、自分はどうするのがよいと思うか。	○現象は“見える”部分。現象が起こるもと（“見えない”部分＝心の中）を想像させる。 ○資料B参考。（班ごとの意見を尊重する） ○資料C参考。 ◎自分の中に潜む心理に対し、自分自身がどう向き合っていけばよいかについて、班での対話を通して自分自身の心と対話し、考えを深める。
まとめ（終末） ・教師自身の思いを語る。（新型コロナウイルス禍で自分が感じたこと、体験談、クラスや生徒への思い、現在の心境など。） ・学習を振り返り、生徒の本意や決意表明などを書き残す。	[重要な視点] ○保健・衛生面だけでなく人権意識が問われている。→正しく知り、正しく行動し、一人ひとりを大切にすることの重要性。 ○デマ・噂・憶測・非難に出くわしたとき、現象の根っこを冷静に見極め、樹に栄養を与えないようにしなければ、自分自身が差別する側の立場になってしまうことがある。 ○顕在化している現象の根っこに目を向け、どう考え、どう行動すべきかを自分の頭で考えることが大切である。

※出典：日本赤十字社「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」

※標準学習時間は1時間。班での話し合い用に模造紙や付箋を準備するとよい。

※班活動が望ましいが、状況に応じてタブレット端末を活用する等、密を避ける工夫をする。

《参考資料》

新型コロナウイルス感染症を防ぐには

新型コロナウイルス感染症とは

○ウイルスは自分自身で増えることはできず、粘膜などの細胞に付着して入り込み増えます。
 ○現時点（令和2年9月）では、飛沫感染（ひまつかんせん）と接触感染によって感染すると考えられます。閉鎖した空間で、近距離で多くの人と会話するなどの環境では、咳やくしゃみなどの症状がなくても感染を拡大させるリスクがあるとされています。

飛沫感染	感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つばなど）と一緒にウイルスが放出され、他の方がそのウイルスを口や鼻などから吸い込んで感染すること。
接触感染	感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスがつきます。他の方がそれを触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触ることにより粘膜から感染すること。

一人ひとりができる感染症対策は？

○人と人との距離をとること、外出時はマスクを着用すること、家の中でも咳エチケットを心がける、さらに家やオフィスの換気を十分にする、十分な睡眠などで自己の健康管理をしっかりする等で、自己のみならず、他人に感染させないように徹底することが必要です。

■ 3つの密（密閉・密集・密接）の回避

■ 正しい手洗い

■ 咳エチケット



（参考資料）首相官邸ホームページ 「新型コロナウイルス感染症に備えて～一人ひとりができる対策を知っておこう～」

厚生労働省ホームページ 「新しい生活様式」の実践例

《参考資料》

子ども向け教材の紹介

子ども向けの教材「新型コロナウイルスについて いっしょに考えよう！」を紹介します。

この教材は、新型コロナウイルスへの理解を深め、感染予防を一緒に考えながらすすめたいとの思いから、岡山大学と一般社団法人知識流動システム研究所が共同で作成されたものです。小学生でもわかるよう平易な言葉で説明されており、改変しなければ自由に印刷・転送ができます。

**しんがた
新型コロナウイルスについて
いっしょに考えよう！**

もっとくわしく知りたい！
というひとへ、いろいろな
質問や答えがのっているよ。

①コロナウイルスってなに？
②どのような症状があるの？
③どうやって感染するの？
④感染をふせごう！
⑤ウイルスとたたかっている友だちや家族を応援しよう！

①コロナウイルスってなに

ふしぎな形だね。形が王冠ににているから、ギリシャ語で「王冠」をいみする「コロナ」という名前がついたんだって！

花粉	赤血球	細菌	ウイルス
30 μ m	8 μ m	1 μ m	0.1 μ m

※1 μ mは、1mmの1000分の1の長さです。

この小さなウイルスは、人の体の中に入ってしまうと、細胞のはたらきをこわしてしまいます。

コロナウイルスには、色々なしゅるいがあります。人に感染するコロナウイルスは、これまで6しゅるい知られてきました。今回の新型コロナウイルスは7番目に見つかった新しいタイプのコロナウイルスです。

そのため、まだせんもんかにもわかっていないことがたくさんあって、このウイルスせんようの、ちりょう法やよぼう法も、今はできていません。

(岡山大学SDGs推進本部・一般社団法人知識流動システム研究所 共同開発)

他にも、「新型コロナウイルス対策『新しい生活様式』について一緒に考えよう！」も掲載されています。英語・中国語・韓国語に翻訳されたものもあります。

詳しくは、一般社団法人知識流動システム研究所 http://www.smips.jp/KMS/stop_covid-19_new/

《参考資料》

「ハンセン病問題を正しく理解してください。」

ハンセン病は「らい菌」という細菌によって引き起こされる慢性の感染症で、主に末梢神経が麻痺したり、皮膚に病変が現れますが、発病することはまれな病気です。日常生活で感染する可能性はほとんどありませんし、いまは適切な治療を受ければ必ず治る病気となっています。しかし、当時は、ハンセン病患者の強制的な入所や住んでいた家の消毒などが行われたことで、周囲の人々は恐怖心を植えつけられました。家族は近所づきあいから疎外され、結婚や就職を拒まれたり、引っ越しを余儀なくされたりすることも少なくありませんでした。また、元患者に対する差別も根強く残っていました。病歴が知られることを恐れて十分な治療が受けられず、生活苦の果てに体をこわし、やむなく療養所に戻る人も少なくありませんでした。

今、感染症がもたらす人権侵害が大きな問題となっています。ハンセン病問題の歴史を振り返り、偏見や差別について考え、同じ過ちを繰り返さないためには、人間は安全が脅かされると自己防衛本能から攻撃制が高まりやすくなるということを認識し、人を排除するのではなく、ウイルスについて「正しく理解すること」で偏見や差別をしない行動が大切です。

(参考資料) 滋賀県 「ハンセン病問題を正しく理解してください。」

参考文献等

- ・絵本「あの子」
ひぐちともこ 作／絵
エルくらぶ(株)解放出版社 2000年
- ・動画「ウイルスの次にやってくるもの」
日本赤十字社
- ・「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！
～負のスパイラルを断ち切るために～」
日本赤十字社ホームページ
- ・動画「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！
～負のスパイラルを断ち切るために～」
日本赤十字社石川県支部
- ・「新型コロナウイルス感染症に備えて
～一人ひとりができる対策を知っておこう～」
首相官邸ホームページ
- ・「『新しい生活様式』の実践例」
厚生労働省ホームページ
- ・「新型コロナウイルスについていっしょに考えよう」
岡山大学SDGs推進本部
一般社団法人知識流動システム研究所
- ・冊子「ハンセン病問題を正しく理解してください。」
滋賀県

新型コロナウイルス禍で見つけた ほっと♡エピソード

保育士さんが感染したので、その保育園はしばらくの間休園となりました。

再開後しばらくして、職員が保育園に出勤すると「がんばれ〇〇保育園」と書かれた手作りの旗が入口に飾られていました。誰かが保育園を応援するために作ってくれたもので、園長先生はうれしい気持ちでいっぱいになり、涙が流れました。

また、保育園での出来事を知った隣の小学校でも、子どもたちが「いっしょにがんばろう」のメッセージを校舎の窓に掲げました。

新型コロナウイルスの影響が長期化する中、常に感染リスクを伴いながら作業を続けるごみ収集作業員に向けて「危険がある中、回収していただき感謝します」「安全をお祈りします」等のメッセージがごみ袋につけられていました。それを見た作業員は「地域の皆さんの気遣いがありがたく、心温まる思いになりました。」と話していました。

感染拡大防止のため臨時休業中のホテルが、周囲の人に少しでも元気になってほしいという思いから、「日本ガンバロウ」と客室の明かりを点灯しメッセージを映し出しました。インターネット上には「こんなメッセージがなんかいいね。泣けるね!感動。ありがとう」等の書き込みが数多く見られました。

病床不足解消のため、軽症者を受け入れているホテルに対して、商店街が中心となり患者と医療従事者を励ます旗や幕を作り、ホテルの窓から見えるところに掲げました。そして、「是非お身体を治してから、またいらしてくださいませ。」とも話していました。

クラスター（感染者集団）が発生した教育機関に対して、地元の自治会が「偏見や差別でなく やさしさが広がるように!」とポスターを作成し呼びかけました。また、自粛生活を送る学生に食事などの支援を行いました。

「クラスター発生について当初から電話などで厳しい批判もあったが、市や周辺住民が温かく細やかに対応してくれた。多くの支援が大変心強かった。」と学校関係者は感謝の言葉を述べました。

ある人は、家で過ごす時間が増えたので、溜まっていた子どもたちのビデオ（運動会など）をDVDに焼いたり、写真を印刷してアルバムにまとめたりしました。懐かしさから思い出話に花が咲き、家族内での会話が増え、「こんなふうのにんびりと家族で過ごす時間があってもいいな。」と感じたそうです。



想像力を働かせ 気づき・考え・学び合い・自らの生き方につなぐ
人権学習指導資料

発行日 令和2年(2020年)12月
発行 滋賀県教育委員会
問い合わせ先 滋賀県教育委員会事務局人権教育課

TEL 077-528-4592

FAX 077-528-4954

URL <https://www.pref.shiga.lg.jp/edu/school/zinken/>



印刷 兼松総合印刷株式会社